

談話室



復興の機運 盛り上げたい

来熊した国際キワニス日本地区ガバナー

藤原 武平太さん(77)

キワニスクラブはライオンズクラブ、ロータリークラブと並び、世界三大奉仕団体とされる。今回は、全国35カ所にある地方クラブへの公式訪問で来熊した。熊本のクラブの会員数は168人。国内では東京の230

人に次ぐ2番目の規模を誇る。「九州各県でクラブ設立が広がるきっかけをつくってもらっている」と評価する。

キワニスは米国の先住民の言葉で「みんな一緒に集まる」という意味。「子どものために」

を活動のテーマに掲げ、破傷風の撲滅や児童虐待防止などに取り組み。熊本では、熊本市の慈恵病院が運営する「ここのとり」のゆりかご(赤ちゃんポスト)への支援を5年ぶりに再開する方針だ。

愛媛県今治市出身で、東大を卒業後、1964年に通産省(当

時)入省。駐ブルガリア大使や大手電機メーカーのシャープの専務などを務めた。98年にキワニスクラブの活動を始め、2016年から国内クラブを束ねる日本地区ガバナーを担う。

18年9月に、全国のクラブの代表者らが一堂に会する年次総会を熊本市で開催する予定。「熊本が地震から復興に向かう様子を全国の仲間に見てもらい、支援の機運も盛り上げたい」

(山口尚久)

◇ふじわら・ぶへいた 東京都北区在住。